

## 5 プレスクールのカリキュラム

---

プレスクールの活動はその目的から2つの活動から成り立ちます。

第1の活動は、「子どもの年齢相応の認知発達を支援する」ということです。

日本国内で育つ外国人の子どもを取り巻く環境は、序章「プレスクールの必要性和愛知県のプレススクール事業」(1ページ)でも述べられている様にことばを育てるのに適切ではない場合が少なくありません。そうした環境で育った子どもの中には、母語も日本語も分からず年齢相応の認知発達ができていない子どももいます。

こうした子どもたちには、母語での歌や遊び、読み聞かせなど、母語を沢山インプットしたり、アウトプットさせたりする、母語の基礎作りの時間が必要です。プレススクールでも母語話者の指導者や協力者の助けを借りて、母語での活動時間が作れるように計画するとよいでしょう。

同時に保護者に対しては、第3章2「子どもの第2言語習得と家庭」(68ページ)で述べられているように、家庭での親子間の関わりが大切なことを伝えましょう。保護者が参加できる活動を計画したり、家庭で母語を育てる関わり方のヒント等を伝えるとよいでしょう。

また指導者は、日本語の習得を焦るあまり「家庭では母語を使わないで、日本語で話しましょう」といった、結果的に親子間のコミュニケーションツールを奪い取ることになるような働きかけをしない配慮が、求められるでしょう(→1「プレススクールでの「指導」の留意点」(19ページ))。

第2の活動は、外国人の子どもたちに「小学校に慣れるように、学校のルールや活動について理解させ」、同時に「学校生活に必要な日本語を教える」ということです。文化も言語も異なる日本の小学校に何の支援もなく入学して、不安を感じて不適應を起こす子どもも少なくありません。

このマニュアルでは、学校生活指導、読み書き指導、基礎的な算数の概念と数の指導の3つの観点からカリキュラムと活動の例を紹介しています。

### (1) 学校生活指導カリキュラム

#### ① 子どもの実態

就学前に子どもが過ごしている環境は様々ですが、中には外国人向け託児所で長時間過ごし、日本生まれ日本育ちであっても日本社会との接点が少ない子どもや、不就園で同年齢の子どもとの集団生活の経験がないという子どもがいます。こうした子どもは、日本の幼稚園や保育園を経験している子どもならば、無意識に身に付けている日本の集団のルールや行動が分からない場合があります。

## ② 留意点

「ことば」は人との関わりの中で習得されるもので、就学前の子どもには活動とことばを結び付けた指導が有効でしょう。

学校生活指導では、小学校生活を疑似体験するような活動が有効で、実際の学校の授業のように、あいさつをして始めたり、決められた机にきちんと着席して指導を受けたりという体験学習が効果的でしょう。小学校での生活の指導を理解したいという指導者には、『にほんごをまなぼう・教師用指導書』（文部科学省）が参考になるでしょう。

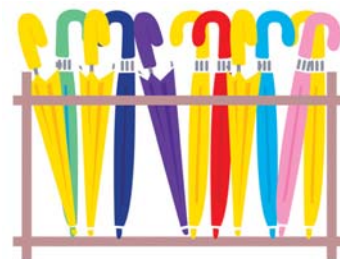
このマニュアルで紹介した活動は、子どもの状況に対応し、指導者が臨機応変にカリキュラムの順序を組み替え、指導時間を伸ばしたり縮めたりしながら活用してください。

愛知県モデル事業のプレススクール指導者は、「毎日同じことを何度も繰り返すことで指導内容が定着するような、ゆっくり学んでいく子どもが多い」という感想を語っています。楽しい活動を積み重ねながら、新しく始まる小学校生活に安心感や期待を抱くことができるような配慮が大切でしょう。

＜学校生活指導の流れ＞

活動のねらい		覚えたいことば	●：保護者との連携 ▲：文化の違い等による配慮点
1	<p><b>あいさつ</b></p> <p>□学校生活を送る上で必要なあいさつが理解でき、言える。</p> <p>□指導者と一緒に授業のあいさつができる。</p> <p>□今日が何月何日何曜日か分かる。</p> <p>＜体験入学＞</p> <p>□実際に各教室や廊下を指導者と共に歩き、あいさつや入室時のあいさつなどを体験する。</p>	<p>あいさつ（おはようございます、こんにちは、さようなら）</p> <p>授業のあいさつ（起立・礼・着席、お願いします、今から日本語の勉強を始めます・終わります など）</p> <p>今日は、○月○日○曜日です。</p>	<p>▲目を見て話すことが相手に失礼になるという国もある。人と接する態度の規範が国によって異なる。</p> <p>▲子どもであっても、頭を触ることが失礼になる国もある。「よい子」のつもりで頭を触ったことでトラブルになったケースもある。</p>
2	<p><b>自己紹介</b> →活動例 1</p> <p>□母語で自己紹介が言える（名前・年・家族構成など）。</p> <p>□日本語で簡単な自己紹介が言える。</p> <p>□指導者の名前が分かる。</p>	<p>自分のこと（名前、○歳）</p> <p>ぼく、わたし</p> <p>家族（お父さん、お母さん、お兄さん、お姉さん、弟、妹）</p> <p>○○せんせい</p>	<p>▲一人親家庭も多いので配慮が必要。</p> <p>▲家族の概念が異なり、親戚を含め大きなまとまりで家族を捉える国もある。</p>
3	<p><b>座る</b> →活動例 2</p> <p>□正しい姿勢で座ることができる。</p> <p>□学校での 1 単位時間（45 分）程度座っていることができる。</p>	<p>いす、つくえ</p> <p>指示語（起立、礼、着席、すわってください、たってください）</p>	<p>▲ブラジルの学校では、日本のように毎時間始業終業時にあいさつをすることはない。</p>

活動のねらい		覚えたいことば	●：保護者との連携 ▲：文化の違い等による配慮点
4	<p><b>トイレ</b></p> <p><input type="checkbox"/>和式トイレの使い方がわかり、排泄が一人でできる。</p> <p><input type="checkbox"/>トイレ使用后、手洗いをし、ハンカチで拭く。</p> <p><input type="checkbox"/>トイレに行きたいときに、許可を求める表現が言える。</p> <p>&lt;体験入学&gt;</p> <p><input type="checkbox"/>学校のトイレを実際に試してみる。</p>	<p>トイレ</p> <p>おしっこ、うんち</p> <p>トイレ行きたい？</p> <p>トイレ行ってもいい？</p> <p>指示語</p> <p>(手を洗ってください)</p>	<p>●和式トイレを使った経験のない子どもには、家庭でも経験させるように伝える。</p> <p>▲外国では、水圧が低かったり排水管が細かったりするため、トイレットペーパーをトイレに流さないでゴミ箱に捨てることも多い。</p>
5	<p><b>もちもの</b></p> <p>→活動例16</p> <p><input type="checkbox"/>学校に持って行ってよいものと悪いものの区別がつく。</p> <p><input type="checkbox"/>自分の持ち物に日本語で名前を書くことができる。</p> <p><input type="checkbox"/>よく使う文房具の名前が分かる。</p>	<p>いい、だめ、ある、ない</p> <p>これは、何ですか？</p> <p>文房具（鉛筆、消しゴム、筆箱、したじき、ノート、本）</p> <p>持ち物（鞆、帽子、ハンカチ、ティッシュペーパー、水筒、傘）</p>	<p>●学校に持って行ってよいものと悪いものを伝える。持ち物を視覚化したリストを渡すとよい。</p> <p>●保護者自身が子どもの名前を日本語で書けるように見本を渡す。</p>



活動のねらい		覚えたいことば	●：保護者との連携 ▲：文化の違い等による配慮点
6	<b>教室での指示語</b> <input type="checkbox"/> 教室での基本的な指示語が聞いて理解できる。 <input type="checkbox"/> 指示に従って動くことができる。	わかる、わからない 指示語（聞いてください、書いてください、読んでください、話してください、見てください、出してください、片づけてください、静かにしてください など） 動作の条件（もう一度、ゆっくり、急いで、丁寧に、大きく、小さく、大きな声で）	※指導を通して使う指示語はできるだけ同じ形で言うといい。例えば、「読んで／読んでください／読みましょう／読む／読みます／読もう／読みん」の言い方が、同じ内容であることが子どもに分かるには時間がかかる。指導者は学校見学をして、学校で使われる表現をチェックするとよい。
7	<b>ものの貸し借り</b> <input type="checkbox"/> 物を借りるときの表現が言える。 <input type="checkbox"/> 借りた物を、お礼を言ってお返すことができる。 <input type="checkbox"/> 物を尋ねるときの表現が言える。	忘れました 貸してください ありがとう ごめんなさい これ、なに？	
8	<b>道具の使い方</b> →活動例4・25 <input type="checkbox"/> はし →11 給食 <input type="checkbox"/> えんぴつの持ち方 →文字指導 <input type="checkbox"/> はさみ、のり、セロテープ <input type="checkbox"/> 掃除道具 →14 掃除	指示語（切ってください、付けてください、貼ってください） 動作の条件（気をつけて、まねして）	●筆箱、鉛筆、消しゴムは自分の物を用意させ、鉛筆は毎回家で削ってくることを伝える。 ▲ブラジルでは、テストの際不正を防ぐ目的のため、ボールペンを使用することもある。保護者は子どもにもボールペンを用意することもある。

活動のねらい		覚えたいことば	●：保護者との連携 ▲：文化の違い等による配慮点
9	<p><b>体のこと</b></p> <p>→活動例6・7・8</p> <p><input type="checkbox"/>体の不調を母語で言うことができる。</p> <p><input type="checkbox"/>体の不調について、様々な伝え方（身振り手振りなど）を知り、伝えることができる。</p> <p><input type="checkbox"/>体の部位の名前が言える。</p> <p><input type="checkbox"/>体の不調を日本語で言うことができる。</p> <p>&lt;就学時健康診断&gt;</p> <p><input type="checkbox"/>自分で服の脱ぎ着ができる。</p> <p><input type="checkbox"/>ボタンの止めはずしを一人でできる。</p> <p><input type="checkbox"/>保健室の役割が分かる。</p> <p><input type="checkbox"/>学校での検診について分かる。</p>	<p>顔（顔、口、目、鼻、歯、髪の毛）</p> <p>体（頭、手、足、おなか、首、肩、背中、胸、腰）</p> <p>元気ですか？</p> <p>不調の言い方（痛い、痒い、風邪、熱、怪我、苦しい、薬）</p>	<p>●既往症やアレルギーなど、学校に伝えるべき健康状況について聞く。</p> <p>●就学時健康診断への参加を促し、情報を伝える。</p> <p>●就学までに済ましておくとよい予防接種の情報を伝える（参考：豊橋市教育委員会「外国人教育資料」ウェブページ「予防接種のお知らせ」）。</p> <p>▲学校に保健室のない国も多く、「学校保健」ということが保護者に理解できないことがある。機会があれば、保護者に保健室を見てもらい、小学校入学後に内科検診等様々な検診や保健アンケートがあることを知らせる。</p>
10	<p><b>気持ちを表す</b></p> <p>→活動のヒント3・5</p> <p><input type="checkbox"/>嬉しい気持ちや悲しい気持ちを母語で言うことができる。</p> <p><input type="checkbox"/>嬉しい気持ちや悲しい気持ちを日本語で言うことができる。</p>	<p>気持ちを表す表現（嬉しい、悲しい、泣く、笑う）</p>	



活動のねらい		覚えないことば	●：保護者との連携 ▲：文化の違い等による配慮点
1 1	<b>給食</b> →活動例 25 <input type="checkbox"/> はし、ナフキンを準備することができる。 <input type="checkbox"/> 給食のあいさつがわかり、指導者と一緒に行うことができる。 <input type="checkbox"/> はしが使える。 <体験入学> <input type="checkbox"/> 給食を食べる経験をす る。 <input type="checkbox"/> 給食当番を知る。	給食、はし、ナフキン たべます、のみます、いただきます、ごちそうさまでした 味覚（おいしい、まずい、甘い、辛い、熱い、冷たい） 食べ物（パン、おかず、肉、魚、カレーライス） 果物（バナナ、いちご、りんご、ミカン、ぶどう、もも） 野菜（たまねぎ、きゅうり、にんじん、じゃがいも） 飲み物（牛乳、お茶、水） デザート（プリン、アイス クリーム）	●はし、ナフキンなど用意する物を伝える。 ●和食に慣れるように、家庭でも色々な食べ物を試してみるように伝える。 ●機会があれば、保護者にも給食体験をしてもらう。 ▲学校給食制度がなく、おかしや弁当を持参したり、校内に売店のある国も多い。 ▲飲み物は総じて「甘い物」であり、お茶に砂糖を入れる国も多い。 ▲宗教上の理由で、食べられないものがある。 ▲ブラジルでは、パンと食事を一緒に食べる習慣がない（パンは朝食の食べ物）。
1 2	<b>お手伝い（係の仕事）</b> <input type="checkbox"/> 指導者の手伝いをしながら、係の仕事を楽しんでできる。 <input type="checkbox"/> 係の仕事に関わる日本語が分かる。	指示語（手伝って、配ってください、集めてください） プリント、宿題	



活動のねらい		覚えないことば	●：保護者との連携 ▲：文化の違い等による配慮点
13	<b>遊び</b> <input type="checkbox"/> 様々な遊びを楽しむことができる。 <input type="checkbox"/> 遊びの仲間に入る表現が言える。 <input type="checkbox"/> 遊具の使い方がわかる。 <input type="checkbox"/> 約束やきまりを守って友だちと仲良く遊べる。	遊ぼう、入れて、いいよ じゃんけん 遊び（鬼ごっこ、かくれんぼ、だるまさんが転んだ、ブランコ、滑り台 など）	●母国の歌や手遊びなどを、家庭でも積極的に子どもに教えてほしいことを保護者に伝える。
14	<b>掃除</b> <input type="checkbox"/> 学校の掃除の意味が理解できる。 <input type="checkbox"/> 掃除道具の使い方を知り、指導者と一緒に掃除ができる。 <input type="checkbox"/> そうきんを絞ることができる。	掃除道具（箒、ちりとり、ゴミ箱、ぞうきん、バケツなど） 指示語（掃いてください、拭いてください、運んでください）	●日本の学校では児童が掃除をすることを伝える。
15	<b>登下校</b> <input type="checkbox"/> 信号の意味が分かる。 <input type="checkbox"/> 子ども110番の家の意味が分かる。 <input type="checkbox"/> 危険を知らせる日本語が理解でき、助けを求められることができる。	右、左 信号（赤、青、黄色） 横断歩道、踏切 指示語（並んでください、ふざけない） 危険を知らせる語（あぶない、助けて）	●日本の小学校では、集団での登校であることを伝える。 ●通学路を知らせ、保護者と一緒に歩く経験をするように伝える。 ▲ブラジルでは、保護者の送迎による登下校が一般的である。





活動のねらい		覚えたいことば	●：保護者との連携 ▲：文化の違い等による配慮点
16	<b>連絡帳</b> <input type="checkbox"/> 連絡帳やお便り、宿題などを毎日保護者に見せることができる。	指示語（見せてください） 連絡帳	<ul style="list-style-type: none"> <li>●小学校で使う連絡帳を、プレスクールの指導にも使い、連絡帳に慣れてもらう。</li> <li>●見た後に必ず、サインや押印することを習慣化してもらう。</li> <li>▲ブラジルでは、連絡帳は存在せず、保護者への連絡は手紙か電話で行う。</li> </ul>
17	<b>欠席連絡</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●欠席連絡の日本語を理解してもらい、欠席連絡を必ずするように伝える。</li> </ul>

## <参考図書>

### ア 『にほんごをまなぼう』 文部科学省



日本の学校生活や日常生活に早くなじめるよう学校生活での様々な場面に即した会話を中心とした内容。全ページカラーで楽しい絵が掲載されています。

教師用指導書には様々な活動例や指導案が掲載されており、プレスクールの活動の参考になるでしょう。PCで学習が可能なマルチメディア版の「にほんごをまなぼう」も出されています。

(日本語、ポルトガル語、中国語、スペイン語、韓国・朝鮮語、英語、ベトナム語、カンボジア語)

制作：日本語指導教材研究会

(平成10・11・12年度文部科学省委託)

<http://www.hellonavi.com/foldera/index.html>

### イ 『ようこそ！さくら小学校へ～みんななかまだ～』



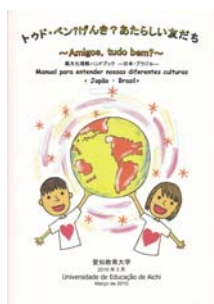
国際日本語普及協会 (AJALT)

日本の小学校の紹介 DVD です。ポルトガル語対応で、学校で使われる語彙や表現の学習ができます。

### ウ 『トゥド・ベン？げんき？あたらしい友だち』

異文化理解ハンドブック ―日本・ブラジル―

愛知教育大学出版会 (非売品)



2006年3月に発行された「『地球のうらからこんにちは』ブラジル人児童と日本人児童のための異文化理解ハンドブック」の改訂版。「日本とブラジルどんな国？」「学校生活」「毎日の生活」「言葉と歌」「スポーツと遊び」「他の国の文化」など、ブラジルと日本を比較する形で記述されています。日本語とポルトガル語併記なので、ブラジル人保護者に日本の学校について説明するときに活用できます。また、指導者が

ブラジルの文化について知り、プレスクール対象の子ども之母文化保持教育に役立てることもできます。なお、同様の異文化理解ハンドブック―日本・中国―『ニイハオマ？げんきあたらしい友だち』もあります。

(※「ウ」の記載内容は、2010年(平成22年8月)に修正)

## (2) 読み書きの指導カリキュラム

### ① 子どもの実態

家庭内でも幼稚園・保育園でも、日本語のみの環境で過ごして成長した日本人の子どもも多くは、就学前に平仮名の読み書きができると言われています。しかし、プレスクールの対象となる外国人の子どもの中には、日本語で簡単な会話ができても読み書きは難しいという子どもが多くいます。

また母語での「読み書き」を学んでいないことも多く、就学年齢で外国から直接編入してくる児童生徒のように、母国で学んできた「読み書き」の経験やスキルを日本での文字の学習に移行するということできません。

更に、書くことの前提として、鉛筆やクレヨンなどの筆記用具に慣れ親しむことが大切ですが、不就園の子どもの中には、プレスクールの活動で初めて鉛筆を持つ、という子どもも少なくありません。

### ② 留意点

読みの習得の前提として、準備段階として、話ことばの音の気付きと、一音が大体一文字へ対応する関係を理解していくことが必要と言われています。日本語を母語として日本語環境で過ごしている子どもは、日本語の音節単位のことばを見聞きし、歌やしりとりなどの様々なことば遊びを通して、日本語独自の音韻意識を獲得しています。文字ことばは、通常、話ことばが十分に育ってから、後に続いて学習されるのです(→第3章1「子どもの言語・コミュニケーションの発達」(61ページ))。

けれども、日本語以外の言語を母語とする外国人の子どもの場合、母語と日本語の音韻構造が異なり、その中で混乱しながら過ごしていることも多く、日々の生活や遊びの中で、日本語の音韻意識を身に付ける活動を意図的に行う必要があるでしょう。

例えば、

- ・ 絵本の読み聞かせ
- ・ 友だちや室内の物の名前など生活の中で頻繁に使うことばを簡単なひらがな文字で表記し、室内に掲示して文字への関心を少しずつ育てる
- ・ 当日の出欠席を確認するとき、顔写真と名前の書いてあるカードを示す

などの工夫をして、「音(おと)と文字」の対応を理解させることも必要でしょう。

さらに、お絵かきや運筆活動をしながら「鉛筆の使い方」を習得させる等の活動も必要でしょう。このマニュアルでは、音韻遊びや運筆指導などの活動もいくつか紹介しています。

＜読み書きの指導の流れ＞

読み指導	書き指導
<b>文字に興味をもつ</b>	
<p><b>1 絵本の読み聞かせ</b>            →活動のヒント 3＜色々なポルトガル語の絵本＞            →活動のヒント 5＜絵本の読み聞かせをしましょう＞</p> <p><b>2 様々な遊びを通して、日本語の音韻に慣れる</b>            →活動のヒント 6＜歌ったり、踊ったり＞            →活動のヒント 7＜替え歌を使って＞            →活動例 6＜歌で覚える体の部位の名前＞            →活動例 1 4＜しりとりあそび＞STEP 1</p>	
<b>文字を書いたり読んだりする準備をする</b>	
<p><b>3 正しい姿勢で座る</b>            →活動例 2＜座り方＞            →活動例 3＜ひげじいさん＞</p> <p><b>4 書かれた自分の名前が分かる</b></p> <p><b>5 ひらがなの形の認識</b>            →活動のヒント 8            ＜絵カードを活用しましょう＞            →活動のヒント 11            ＜幼児用の知育玩具・知育ドリル＞</p>	<p><b>8 鉛筆を正しく持つ</b>            線をなぞる            線を模写する            →活動のヒント 11            ＜幼児用の知育玩具・知育ドリル＞            →活動例 4            ＜鉛筆の持ち方・運筆＞</p> <p>※鉛筆を持つのが初めての子どもに対しては、迷路やなぞりがきなど運筆を十分に練習してから文字を書く指導を行います。</p>
<p><b>6 ひらがな単音の読み</b>            →活動のヒント 8            ＜絵カードを活用しましょう＞            →活動例 1 3＜ひらがなスタンプ＞            →活動例 9＜ひらがなパズル＞            →活動例 1 1＜ひらがな磁石＞</p> <p><b>7 ひらがなことばの読み</b>            →活動例 1 2            ＜ひらがな語彙と絵カード＞            →活動例 1 5＜すごろく＞</p>	<p><b>9 名前を書く</b></p> <p><b>10 ひらがな一文字の書き</b>            ※とめ、はね、はらいなどは、間違っただまま定着しないように注意します。</p> <p><b>11 ひらがなことばの書き</b></p>

### (3) 基礎的な算数の概念・数指導のカリキュラム

#### ① 子どもの実態

外国人の子どもの中には、就学前の生活経験が少なく、そのために算数の学習以前の、量・形・分類・比較などの概念形成ができていない子どももいます。

愛知県モデル事業のプレスクールの参加者の中には、例えば、「形の名前（丸、三角、四角など）が母語でも、日本語でも言えない」「大きい、長い、高い、広いなど、広範囲の量を表すことばを、母語でも日本語でも全て大きいという1つの概念で理解している」「母語でも日本語でも5以上の数が数えられない」など、小学校での算数指導の入り口にたどり着けない状況の子どもがいました。

#### ② 留意点

このカリキュラムでは、「数のことばや数唱」以前の、算数のもとになる力を遊びを通して学ぶ活動をいくつか紹介しています。

こうした活動は、3歳児や4歳児の幼稚園や保育園での活動に類似しているので、ここに紹介した活動以外にも、保育現場等での様々な活動を参考にするとよいでしょう。また、特別支援教育の初期の算数指導では、基礎的な算数の概念形成に関する様々な指導が行われていますので、こちらも参考になるでしょう。

加えて、日本語以外を母語とする外国人の子どもの、基礎的な算数の概念形成には、子どもの母語での支援や活動が有効であると考えられます。母語話者の支援や子どもの保護者が参加できる活動も効果的でしょう。

<基礎的な算数の概念・数指導の流れ>

基礎的な算数の概念	ことば
<p><b>1 分類</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・形で分類する。</li> <li>・仲間集めをしながら上位概念や下位概念が分かる。</li> </ul>	<p>あつめる、わける おなじ、ちがう おなじなかま 色名</p>
<p><b>2 形</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・○△□を書く。</li> <li>・○△□の言い方が分かる。</li> </ul> <p>→活動例 24 &lt;タングラム&gt;</p>	<p>丸、三角、四角 はこ、ボール (形を) うつつ</p>
<p><b>3 比較</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「大きいー小さい」「多いー少ない」「長いー短い」「高いー低い」「軽いー重い」などで比較することができる。</li> <li>・上記の形容詞が言える。</li> </ul> <p>→活動例 20 &lt;どちらが多い?&gt;</p>	<p>大きい、小さい 多い、少ない 高い、低い 軽い、重い どちらが～、どれが～ いちばん～、くらべる</p>
<p><b>4 位置</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・左右、上下、前後が分かり区別できる。</li> <li>・左、右、上、下、前、後が言える。</li> </ul> <p>→活動例 17 &lt;宝探し&gt;</p>	<p>右、左 上、下 前、後ろ、まん中</p>
<p><b>5 対応</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・組み合わせのよいものが分かり、1対1の対応ができる。</li> </ul>	<p>むすぶ かこむ</p>
<p><b>6 暦</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・暦に関心を持つ。</li> </ul>	<p>今日、昨日、明日、 ○月○日、○曜日</p>

数・数字	ことば
<p><b>7 数える</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近にある具体物を数える。</li> <li>・日本語で10まで数えられる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→活動例 22 &lt;具体物と数のマッチング&gt;</li> <li>→活動例 25 &lt;カラフルポンポン&gt;</li> <li>→活動例 26 &lt;魚釣り&gt;</li> </ul> </li> </ul>	<p>いくつ、かぞえる</p> <p>1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10</p>
<p><b>8 数字</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1 から 10 までの数字が読める。</li> <li>・1 から 10 までの数字が書ける。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→活動例 21 &lt;数字のへび&gt;</li> <li>→活動例 23 &lt;あわせて いくつ&gt;</li> </ul> </li> </ul>	

## **6 保護者や関係者との情報共有を図りましょう。**

### **(1) 活動記録**

活動記録は、指導者が日々の活動を振り返り、今後の活動計画を検討するためには不可欠なものです。また活動の状況を、指導者だけでなく実施主体内で情報共有を図ることが大切です。さらに参加者が現在所属している幼稚園・保育園、外国人向け託児所関係者とも共有したいものです。

活動記録は、次のような観点から記録をつけるとよいでしょう。

#### **<活動記録の観点>**

- 1 活動内容
- 2 子どもの理解度や態度
- 3 特に課題がある子どもの様子や保護者や保育者からの情報

＜指導記録（例）＞

供覧： 実施主体	幼・保園関係者等	指導者名：	
月	日	曜日	累積指導時間：
指導時間：	：	～	時間
指導の子ども：（      名）			
指導内容：			
子どもの様子：			
その他：			

活動記録は、参加者が入学する小学校関係者が入学後の指導計画を作成する際にもとても役立ちますので、情報が繋がるようにしましょう。

## （２）保護者との連携

### ① 保護者に伝えること

プレススクールが担う大切な役割の一つとして、外国人保護者が日本の小学校を理解する機会を作ることがあります。

外国人保護者の多くは日本の学校経験がないことから、日本人保護者にとって「常識」のような日本の学校生活が想像できず、保護者自身が不安を感じている場合もあります。小学校 1 年生は、保護者の助けを必要とする学校行事や活動がたくさんあり、小学校と家庭との連携がなくては、子どもが安心して学習を進めることができません。プレススクール開催中に、保護者に次のような情報を積極的に伝えましょう。

ア プレスクールの指導内容

イ 子どもの学習や活動の様子



- (子どものよいところ、伸びたところ)
- ウ 家庭で協力してほしいこと
  - エ 小学校についての様々な情報



## ② 小学校についての様々な情報

小学校生活について紹介している多言語の資料や図書がありますので、参考にし  
て活用するとよいでしょう。

ア 「外国人児童生徒のための就学ガイドブック」 文部科学省

([http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/clarinet/kiko\\_zi0.html](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/kiko_zi0.html))

英語、韓国・朝鮮語、ベトナム語、フィリピン語、中国語、ポルトガル語、ス  
페인語。

イ 「日本語学習・生活ハンドブック」 文化庁

([http://www.bunka.go.jp/kokugo\\_nihongo/kyouiku/handbook/index.html](http://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/kyouiku/handbook/index.html))

第2章「生活情報」4「子どもの教育」、第4章「便利な日本語表現 文字・語  
彙」2「学校の日本語」。

韓国・朝鮮語版、中国語版、ポルトガル語版、スペイン語版、英語版。

ウ 「外国人児童生徒指導資料」 愛知県教育委員会義務教育課

(<http://www.pref.aichi.jp/kyoiku/gimukyoku/gaikoku/top.html>)

「外国人子女教育のための指導マニュアル2」・「ポルトガル語学校配付文書」

エ 「もうすぐ1年生」 豊橋市教育委員会(外国人児童生徒教育資料)

(<http://www.gaikoku.toyohashi.ed.jp/index.htm>)

新1年生の入学説明会用資料。日本語版・ポルトガル語版。

オ 「翻訳文書」 小牧市外国人児童生徒教育連絡協議会

([http://www.komaki-aic.ed.jp/gaikoku/トップページ\(新\).htm](http://www.komaki-aic.ed.jp/gaikoku/トップページ(新).htm))

入学・学校紹介、行事等の翻訳文書。

カ 「岩倉市の学校案内」 岩倉市日本語適応指導教室

(<http://www.iwakura.ed.jp/nihongo/frame.htm>)

ポルトガル語版、一部スペイン語対応。

キ 「学校の準備をしましょう！」

愛知県地域振興部国際課多文化共生推進室

(平成20年度社会参画活動育成事業委託事業)

(<http://www.pref.aichi.jp/0000007725.html>)

小学校で必要となる持ち物等について写真付きで紹介。

英語、中国語、スペイン語、ポルトガル語。

## 7 外国人の子どもと特別支援

---

### (1) 外国人の子どもを取り巻く課題

#### ① 就学前の課題

一般に日本では、乳幼児健康診断が乳児（1歳未満）、1歳6ヶ月児、3歳児を対象に行われています。この健康診断を受けることで早期に育児について相談ができた、障がいや特性が分かり、小学校入学以前に支援や治療・療育に入ることができず。

しかし外国人の子どもの場合、検診を受けていなかったり、検診を受けてもことばの発達の遅れが発見されなかったりするため、早期に障がいや特性が分かりにくい場合があります。

保護者に正確な情報が入りにくいということも関係しています。義務教育の制度の中で留年のある国では、障がいがあっても特別支援学級ではなく留年して年齢より下の学年で過ごしているケースもあり、母国での障がい児教育のイメージのままに、特別支援学級に対して強い抵抗感を持っている外国人保護者も少なくありません。障がいを持つ外国人児童の中には小学校に就学せず、外国人向け託児所で過ごしている子どももいます。

#### ② 原因把握の課題

外国人の子どもたちは慣れない日本での生活の中で、強いストレスを感じて暮らしています。こうした異文化適応のストレスから表れる行動面の課題や学習困難な状況が、発達障がいの児童生徒の状況と酷似していることもあります。

行動面においては、「授業中や座っているべき時に席を離れてしまう」「集中して努力を続けなければならない課題を避ける」「気が散りやすい」「順番を待つことが難しい」などの多動性、衝動性の傾向が見られる場合があります。

また、「聞く」「話す」「読む」「書く」「計算する」「推論する」等の学習に関わる全ての項目で発達障がいのある児童生徒の状況と重なる場合があります。こうした児童の場合、問題行動が「学習障がいなど器質的な問題」に起因するのか、「多言語環境下の言語発達上の問題」によるのか、生育環境など「しつけの問題」によるのかなどの判断は難しく、専門機関に相談するまでに数年かかることがあります。

さらに、専門家の相談や検査を受ける場合においても、日本人を対象とした検査では、文化的な背景の違いや多言語環境にあることが配慮されにくいという課題があります。

## **(2) 特別支援が必要な外国人の子どもとプレスクールの活動**

プレスクール参加者が何らかの障がいを持っていると考えられる場合、そのことを市町村教育委員会に伝え、子どもが小学校入学後に必要な支援を受けられるように相談を繋げていきます。

外国人の子どもに障がいがある場合、家族は文化の違いと子どもの障がいという二つの課題に向き合うこととなります。そうした家族の状況を理解し、就学指導では丁寧な情報提供や相談が求められます。

市町村教育委員会は、医師や学識経験者、教員などを構成委員とする「就学指導委員会」で、対象の子どもの実態を把握し、保護者の意向を十分に汲み取ったうえで就学先の候補を挙げる等の役割をします。外国人の子どもについても、こうした対応は同様です。

また、プレスクールに障がいを持った子どもが参加する場合、周囲の刺激に弱く、集団での活動が難しいことがあります。注意をすることで、子どもがかえって混乱して怒り出したり、自信を喪失することもあります。専門機関に対応についての相談をしたり、保護者の協力を得て保護者と一緒にプレスクールの活動を行うなど、様々な工夫が求められることとなります。

いずれにしても、プレスクール指導者が全ての課題を抱え込むことがないように、体制作りを考えましょう。

## **(3) 行動面に課題のある外国人の子どもとプレスクールの活動**

プレスクール参加者の中には、(1)②「原因把握の課題」(55ページ)に述べたような様々な理由で、障がいがなくとも、落ち着きがなく衝動的な行動を示す子どももいます。こうした時、指導者にとってプレスクールの活動が過大な負担とならないように、関係者と協力し、次のような方法を考えてみましょう。

### **① クラス編成**

集団指導か、個別指導かを、子どもの様子を見ながら、判断していきましょう。

### **② 母語での活動**

日本語の指示が分からないために落ち着かないこともあります。母語話者の協力を得て母語での活動を工夫しましょう。

### **③ スモールステップの活動**

プレスクールの指導中の目標を、無理のない小さなステップで考え、達成感を感じ

られる活動を行いましょう。できないことより、できるようになったことを沢山誉めてあげましょう。

#### ④ 保護者との連携

プレスクールの活動内容や子どもの様子を保護者に伝えたり、家庭で保護者ができる活動を紹介することもよいことです。プレスクール指導者は、安易に「障がいが見られる」等、断定的な判断を言わないように注意しましょう。

#### ⑤ 指導記録と小学校への繋ぎ

子どもの様子を丁寧に記録しましょう。こうした記録は、実施主体が市町村教育委員会や入学先の学校に伝えるなどにより、入学後の体制作りに繋がります。

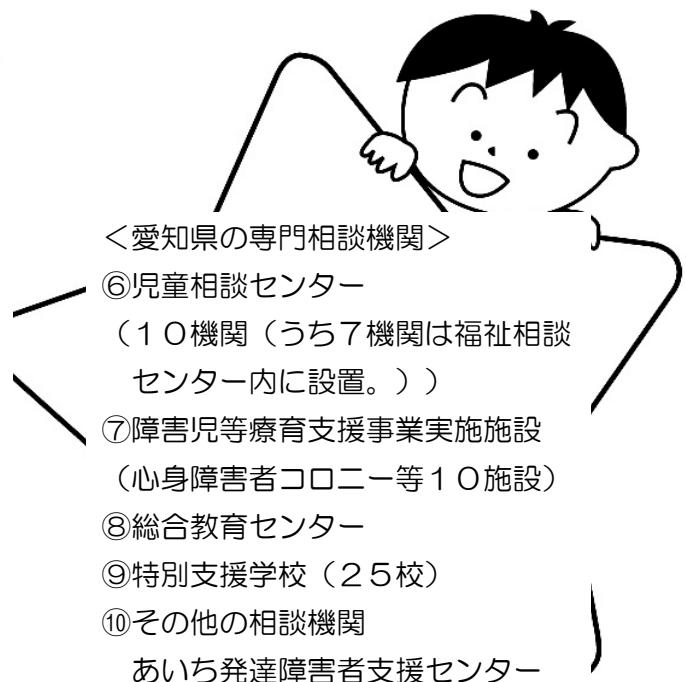
#### (4) 相談機関

愛知県（あいち発達障害者支援センター）では、子どもの発達について気になっている保護者に向けて、『子育て応援ノート＜乳幼児編＞＜学童期編＞』という冊子（<http://www.pref.aichi.jp/hsc/asca/siryositu/siryositu.htm>）を発行しています。この冊子では、保護者が感じる心配事をピックアップして、子どもの観察の仕方や保護者のできそうな関わり方などを紹介しています。また、市町村や愛知県には、次のような相談窓口等がありますので、参考にしてください。



##### ＜市町村の相談窓口＞

- ①市町村役場
- ②保健センター
- ③子育て支援センター
- ④家庭児童相談室
- ⑤教育委員会



##### ＜愛知県の専門相談機関＞

- ⑥児童相談センター  
（10機関（うち7機関は福祉相談センター内に設置。））
- ⑦障害児等療育支援事業実施施設  
（心身障害者コロニー等10施設）
- ⑧総合教育センター
- ⑨特別支援学校（25校）
- ⑩その他の相談機関  
あいち発達障害者支援センター



##### ＜愛知県の関係ウェブページ＞

- ・子ども相談WEBページ  
[http://www.pref.aichi.jp/owari-fukushi/jiso/index\\_jiso.html](http://www.pref.aichi.jp/owari-fukushi/jiso/index_jiso.html)
- ・あいち発達障害者支援センター  
<http://www.pref.aichi.jp/hsc/asca/index.htm>
- ・教育委員会特別支援教育課  
<http://www.pref.aichi.jp/kyoiku/tokubetsushien/index.html>
- ・総合教育センター  
<http://www.apec.aichi-c.ed.jp/>

## <参考図書>

### ア 『母子健康手帳』



「英語」「ハングル」「中国語」「タイ語」「タガログ語」  
「ポルトガル語」「インドネシア語」「スペイン語」  
定価787円（本体750円）

編集 財団法人母子衛生研究会

厚生労働省令に基づく母子健康手帳の記録ページを、外国語と日本語の2か国語で併記している。国際化の進む中、日本語のわからない外国人住民に大切な制度を完全に理解してもらうために、在日人数の多い8か国語に翻訳したもの。

### イ 『母子保健医療・子育てガイド』



「英語」「ハングル」「中国語」「ポルトガル語」「スペイン語」  
定価 525 円（本体 500 円）

編集 財団法人母子衛生研究会

日本で暮らす外国人が出産・子育てをする際に知りたい出産の手続きや行政サービス、疑問や不安について答えるガイドブック。外国語と日本語を併記している。

